

平成25年ゴールデンウィークにおける主な観光施設等の利用状況について

平成25年ゴールデンウィークに県内の主な観光地を訪れた観光客の状況について、次のとおりまとめました。

調査目的： ゴールデンウィーク期間中の観光客の傾向を調査し、今後の観光振興施策や観光事業者の事業展開の参考資料とする。

調査地点： 県内主要観光施設利用状況、市町村イベント等の動員数 64地点
(参考調査) 高速道路、有料道路利用台数調査

集計期間： 平成25年4月27日(土)～5月6日(月)の10日間

観光客数：**延べ 135万人** (前年比 約14万3千人増、11.8%増)

1 概 況

- 県内の主な観光施設・イベント(64地点)を訪れた観光客数は合計135万人で、前年より約14万3千人増加した(前年比111.8%)。
- 今年のゴールデンウィークは好天に恵まれ、期間中に富士山の世界文化遺産登録勧告もあったことから、富士北麓地域を中心に県全体として大きく増加した。
- 中3日の平日をはさみ、前半の3連休と後半の4連休に分かれた分散型のゴールデンウィークであった。長期休暇が取りにくい曜日配列であったため、近場で楽しむ国内旅行が人気であったとみられる。
- 4月30日にはイコモスからの富士山の世界文化遺産登録勧告を受け富士山への注目度が高まったこともあり、関連する施設を中心に連休後半の客足が伸びた。特に、富士山周辺の、期間中に見頃を迎えた花をテーマとした公園・祭りは、大幅に増加した。
- 期間の前半はやや気温が低かったものの、休日を中心に天候に恵まれたため、行祭事・イベントでは大きく増加した。また、公園や動物園等の屋外施設、山やロープウェイ等の自然に関する施設、道の駅等で増加がみられた。一方、昨年、天候不順のなか堅調であった直売所や美術館・博物館等の屋内施設において減少がみられた。
- 圏域別では、富士・東部、峡東、峡南圏域では10%以上の増加となった。特に、富士山の世界文化遺産登録勧告の影響もあった富士・東部圏域では30%近い大幅な増加となったが、昨年好調だった峡中、峡北圏域で前年から2%前後の減少がみられた。

2 各圏域別の状況

※別添資料参照

【峡 中】

- ・ 峡中圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、前年比 98.1%とやや減少した。
- ・ 期間を通じて好天であり、「甲府市立動物園」や「正の木祭り」等の屋外施設・イベントでは前年と比較して10%以上の増加であったのに対し、「山梨県立愛宕山子供の国」や「赤坂台総合公園」では前年比70%前後であり、屋外型の施設でも増減が分かれる結果となった。
- ・ ヴァンフォーレ甲府のホームゲームが昨年より1試合減った「小瀬スポーツ公園」や、昨年好調だった屋内型の施設（「山梨県立美術館」や「かいてらす」等）では減少した。
- ・ 峡中圏域は、昨年・一昨年と好調だった反動もあり、圏域全体としては微減となった。一部の施設からは「注目度が高まった富士山方面へ客足が流れた」という声も聞かれた。

【峡 東】

- ・ 峡東圏域所在の対象施設等に係る観光客数は前年比125.8%と大幅に増加した。
- ・ 天候に恵まれたことから、昨年は大雨等の影響を受けたスポーツ・レクリエーション施設（「山梨県森林公園金川の森」や「笛吹川フルーツ公園」）、行祭事・イベント（「フルーツ公園グリーンフェスタ」）で大幅に増加した。
- ・ 昨年も好調であった「大菩薩嶺」や「大菩薩の湯」は、今年も引き続き増加した。
- ・ 一方、屋内中心の施設である「勝沼ぶどうの丘」や「山梨県立博物館」では減少がみられた。
- ・ 圏域全体としては、好天により大幅に増加した施設が多い。また、一部の施設からは、「富士山方面からの周遊もあったようだ」という声も聞かれた。

【峡 南】

- ・ 峡南圏域所在の対象施設等に係る観光客数は前年比 111.7%と増加した。
- ・ 天候に恵まれたため、自然に関する施設である「身延山ロープウェイ」や行祭事・イベントである「南アルプス早川山菜祭り」では大幅に増加した。また、「道の駅とみざわ」も好調であった。
- ・ 一方、「甲斐黄金村湯之奥金山博物館」は昨年好調だった反動で今年は減少した。
- ・ 圏域全体としては、堅調に増加した施設が多い。一部の施設からは「昨年開通した新東名高速道路の影響が継続している」という声も聞かれた。5圏域の中では唯一、平成24年・平成25年と続伸している。

【峡 北】

- ・ 峡北圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、前年比 97.6%とやや減少した。
- ・ 天候に恵まれたため、「山梨県立まきば公園」や「山梨県立フラワーセンター・ハイジの村」では増加がみられたが、昨年大きく増加した「サントリー白州蒸留所」等、集客力の大きい施設で減少がみられた。
- ・ 震災直後の平成23年、天候が不順だった平成24年と増加を維持してきた峡北圏域であったが、今年は減少となった。峡中圏域と同様に、注目度が高まった富士山方面へ客足が流れたことも影響したものとみられる。

【富士・東部】

- ・ 富士・東部圏域所在の対象施設等に係る観光客数は、前年比129.4%と大幅に増加した。
- ・ 期間中に富士山の世界文化遺産登録勧告があったことから、「**北口本宮富士浅間神社**」で増加がみられた。また、「**道の駅富士吉田**」も好調であった。
- ・ 天候に恵まれ、期間中に花の見頃を迎えたことから「**富士芝桜まつり**」や「**山中湖花の都公園**」では大幅な増加がみられたが、例年より開花が早まった「**富士桜ミツバツツジまつり**」は減少となった。
- ・ 圏域全体としては、天候に恵まれたことや、期間中にイコモスより勧告を受けたことで注目度が高まりメディアへの露出が増えたこと、また、集客力の大きい花をテーマにしたイベント等が好調だったことなどから、前年より大幅に増加した。